

登壇者ご紹介



塩見 三省 (しおみ さんせい)

俳優 1948年京都府生まれ。

演劇を志し、中村伸郎、岸田今日子らとともに別役実や太田省吾の舞台作品、つかこうへい作・演出の「熱海殺人事件」他に出演。

その後、映画「12人の優しい日本人」「Love Letter」「ユリイカ」「血と骨」「アウトレイジビヨンド」、NHK連続テレビ小説「あまちゃん」、ドラマ「パンとスープとネコ日和」他、多数の映像作品に出演。

2014年に病に倒れるが、2017年、北野武監督の映画「アウトレイジ最終章」(第39回ヨコハマ映画祭助演男優賞受賞)で復帰。2025年は「劇映画 孤独のグルメ」、映画「平場の月」に出演。近年はエッセイ集(本書)や脚本、書評も執筆している。



竹田代 志門 (たしろ しもん)

東北大学大学院文学研究科 教授。2007年東北大学大学院文学研究科博士後期課程修了。国立がん研究センター社会と健康研究センター生命倫理研究室室長を経て現職。医療社会学、生命倫理学を専門に、長年にわたる日本のホスピス・緩和ケアのフィールドワークに基づく「病の語り」研究に携わっている。著書に「死にゆく過程を生きる—終末期がん患者の経験の社会学」、「臨床現場のもやもやを解きほぐす—緩和ケア×生命倫理×社会学」等。



秋山 美紀 (あきやま みき)

NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク副代表理事/慶應義塾大学環境情報学部 教授/からだ館プロジェクトリーダー・社会福祉士。家族のがん経験をきっかけに、保健医療福祉をつなげる研究と実践の道に入る。専門はコミュニティヘルスとヒューマンサービス。山形県鶴岡市では図書館を拠点にした「からだ館」にて情報サポートや、がん患者コミュニティの運営を約15年継続。自身もがん経験者。



村本 高史 (むらもと たかし)

NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク副代表理事/サッポロビール株式会社人事総務部プランニング・ディレクター。本フォーラムの企画者、頸部食道がん経験者。社内では2014年秋より専門職として治療と仕事の両立支援策を推進し、がん経験者の社内コミュニティ「Can Stars」を運営。厚生労働省「がん診療連携拠点病院等の指定検討会」構成員や「厚生科学審議会がん登録部会」臨時委員も務めている。



高橋 都 (たかはし みやこ)

NPO法人日本がんサバイバーシップネットワーク代表理事/岩手医科大学医学部客員教授/東京慈恵会医科大学医学部客員教授。一般内科医として10年勤務後、東京大学大学院国際保健学を経て、複数大学の社会医学系教員として勤務。2013～20年に国立がん研究センターがんサバイバーシップ支援部長として研究や情報発信に取り組む。この間、2017年に胆管がんの夫を自宅で見取る。定年退職後、NPOがんサバネットを設立。